

平成24年4月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年12月8日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社 テンポスバスターズ
 コード番号 2751 URL <http://www.tenpos.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 管理部長
 四半期報告書提出予定日 平成23年12月12日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 森下 和光
 (氏名) 毛利 聡

TEL 03-3736-0319

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年4月期第2四半期の連結業績(平成23年5月1日～平成23年10月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年4月期第2四半期	7,318	25.1	585	41.7	631	39.4	351	66.9
23年4月期第2四半期	5,850	△5.9	413	2.1	452	2.7	210	△6.0

(注) 包括利益 24年4月期第2四半期 383百万円 (80.9%) 23年4月期第2四半期 211百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年4月期第2四半期	8,879.96	—
23年4月期第2四半期	5,319.68	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	%	百万円	%	%
24年4月期第2四半期	4,885		2,979		55.4
23年4月期	4,616		2,687		51.5

(参考) 自己資本 24年4月期第2四半期 2,705百万円 23年4月期 2,376百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年4月期	—	0.00	—	900.00	900.00
24年4月期	—	0.00	—	—	—
24年4月期(予想)	—	—	—	900.00	900.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年4月期の連結業績予想(平成23年5月1日～平成24年4月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,000	27.4	1,000	26.2	1,100	31.1	650	72.7	16,428.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

24年4月期2Q	47,716 株	23年4月期	47,716 株
----------	----------	--------	----------

② 期末自己株式数

24年4月期2Q	8,151 株	23年4月期	8,151 株
----------	---------	--------	---------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年4月期2Q	39,565 株	23年4月期2Q	39,565 株
----------	----------	----------	----------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P2「経営成績に関する分析」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報(その他)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	5
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	8
四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) セグメント情報等	11
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11
(7) 重要な後発事象	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間（平成23年5月1日～平成23年10月31日）における当社の中心顧客である外食産業におきましては、依然として続く個人消費者の外食を控える動きや、個人支出の節約志向を背景に、企業間における低価格化競争に拍車がかかり、業態ごとの淘汰がより一層顕著となることとなりました。さらにこれに加え、東北・関東地方を中心とした節電問題、原発事故による食材供給問題等を抱え、厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中で、当社グループは引き続き、当期の方針である「フードビジネスプロデューサー（以下：FBP）化」、「中古2倍」「早期戦力化」の3つを中心に活動してまいりました。

特に、当社店舗におけるリサイクル品の店頭在庫を2倍にし、「リサイクル品のテンポス」という原点回帰を行い、リサイクル品を探しに来店される顧客の期待に応えるための「中古2倍」に関しましては、計画以上の成果を上げております。これは主に、新たにオークションからの買付を始めたことや通常買取の強化によるリサイクル品の確保、再生センターの早期戦力化教育及び機械化による再生効率の改善、店舗での滞留未整備品の強制製品化等の施策を実行した結果であります。

当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高が73億18百万円（前年同期比25.1%増）、営業利益が5億85百万円（同41.7%増）、経常利益が6億31百万円（同39.4%増）となりました。

事業部門別の概況は次のとおりであります。

飲食店向け機器販売事業部門につきましては、今期方針のうち「中古2倍」が計画を超えて推移した結果、リサイクル品を軸にした店舗厨房一式案件の受注増となりました。また、安価で販売可能な輸入品のイステーブルや、自社ブランド品等の販売も計画を上回り業績へ大きく寄与いたしました。また、「FBP化」についても進捗しており、これはコンサルタント事業のように、顧客の業績拡大の支援を行うことが、当社の販売促進にもつながり、ひいては顧客と共に成長するという当社の経営理念に沿ったものであります。具体的には、各店舗におけるセミナーの主催や開業相談、経営相談を自社で行うこと等で、中小個人の飲食店経営者の支援を行っており、中堅大手の飲食企業向けには、新規出店物件紹介やFC展開支援等を行っております。

飲食店向けの販促支援及びASP提供等を主たる業務とするテンポス情報館につきましては、今期より当社店舗内に営業所を構え、「情報館コーナー」として活動を行っております。当第2四半期末までに10拠点を開設しており、同事業の業績へ寄与しております。

インターネット販売につきましては、サイト構成の改善及び特集ページの充実、価格の調整等の基本的な事項を徹底して行いました。これにより厨房機器中心の販売に加え、食器調理道具等の販売も堅調に推移し、売上高増加に大きく寄与しました。また、グループ全体の方針である「中古2倍」の効果もあり、インターネット販売におけるリサイクル品販売も増加した結果、売上高が前年同期比18.5%増、営業利益が同67.6%増となりました。

同事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は53億81百万円（前年同期比9.6%増）、営業利益は5億17百万円（同16.4%増）となっております。

飲食事業部門につきましては、株式会社あさくま（以下：あさくま）が計画を上回る業績で推移しました。これは、当社が持つFBPノウハウの提供と、あさくま自身の業務改善に対する前向きな姿勢がシナジー効果を発揮した結果であります。具体的には、今期より各店舗でメール会員を募集し、四半期に一度のイベント開催の告知や、お得な商品情報の配信等の効率的な販促活動等を行っております。なお、メール会員は年間目標5万件に対して、当第2四半期末までで2万7千件の登録を頂いております。また、新業態として、平成23年6月20日に開店した、BISTROT九段下店（東京都千代田区）の売上も同事業の売上高増加に寄与しております。あさくまでは、ステーキ・ハンバーグレストラン業態の「あさくま」ブランドと、ピストロ業態の「BISTROT」ブランドにてFC加盟店の募集も開始しております。

同事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は15億41百万円、営業利益は68百万円となっております。

リース・クレジット取扱事業部門につきましては、店舗からの紹介案件の増加及び新規取引先の開拓により、増収増益となりました。しかしながら、慎重な与信判断に変更はなく堅実な事業運営を行っております。

同事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は3億71百万円（前年同期比28.4%増）、営業利益は7百万円（同109.9%増）となっております。

その他事業部門につきましては、不動産サブリースを行っており、引き続き安定した収益を上げております。

同事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は24百万円（前年同期比48.1%減）、営業利益は7百万円（同48.3%減）となっております。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

1. 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は48億85百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億69百万円増加しました。その内容は、以下のとおりであります。

(流動資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産の残高は29億72百万円となり、前連結会計年度末に比べて2億39百万円増加いたしました。主因は現金及び預金が2億18百万円増加したことによるものです。

(固定資産)

当第2四半期連結会計期間末における固定資産の残高は19億13百万円となり、前連結会計年度末に比べて29百万円増加いたしました。

(流動負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債の残高17億51百万円となり、前連結会計年度末に比べて60百万円増加いたしました。この主因は短期借入金で69百万円、1年内返済予定の長期借入金で46百万円の減少がありましたが、未払法人税等で1億51百万円増加したことによるものです。

(固定負債)

当第2四半期連結会計期間末における固定負債の残高は1億54百万円となり、前連結会計年度末に比べて83百万円減少いたしました。主因は長期借入金で77百万円減少したことによります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べて2億92百万円増加し、29億79百万円となりました。これは、利益剰余金で3億28百万円が増加し、少数株主持分で35百万円減少したことによります。

2. キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計期間末に比べ、2億18百万円増加して、11億33百万円となりました。

当第2四半期累計連結期間におけるキャッシュ・フローの状況とその要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、5億73百万円の収入（前年同期は3億25百万円の収入）となりました。収入の主な内訳は税金等調整前四半期純利益が6億23百万円、たな卸資産の減少が△48百万円等であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、1億23百万円の支出（前年同期は7百万円の収入）となりました。主な内訳は、子会社株式の取得による支出が62百万円、関係会社株式の取得による支出が17百万円、その他26百万円等であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、2億31百万円の支出（前年同期は1億93百万円の支出）となりました。主な内訳は、短期借入金の返済による支出が97百万円、長期借入金の返済による支出が96百万円、配当金の支払額が35百万円等であります。

（3）連結業績予想に関する定性的情報

連結の業績予想につきましては、平成23年12月1日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

テンポス飲み喰いファンド投資事業組合は、平成23年6月15日をもって清算いたしました。
株式会社STUDIO10は、業績等の重要性が低下したため、連結子会社から除外いたしました。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	914	1,133
受取手形及び売掛金	215	209
たな卸資産	1,408	1,457
短期貸付金	4	9
繰延税金資産	119	95
その他	73	72
貸倒引当金	△4	△4
流動資産合計	2,732	2,972
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	453	435
機械装置及び運搬具（純額）	13	15
土地	87	87
建設仮勘定	—	2
その他（純額）	32	26
有形固定資産合計	587	568
無形固定資産		
のれん	119	121
その他	28	30
無形固定資産合計	148	152
投資その他の資産		
投資有価証券	229	223
関係会社株式	100	188
長期貸付金	447	431
長期未収入金	64	61
敷金及び保証金	505	511
繰延税金資産	103	77
その他	33	32
貸倒引当金	△336	△333
投資その他の資産合計	1,147	1,192
固定資産合計	1,883	1,913
資産合計	4,616	4,885

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年10月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	748	756
短期借入金	129	60
1年内返済予定の長期借入金	179	132
未払法人税等	50	201
賞与引当金	146	150
製品保証引当金	10	17
その他	426	432
流動負債合計	1,690	1,751
固定負債		
長期借入金	189	111
長期預り敷金	7	8
その他	40	34
固定負債合計	237	154
負債合計	1,928	1,906
純資産の部		
株主資本		
資本金	509	509
資本剰余金	472	472
利益剰余金	2,217	2,545
自己株式	△821	△821
株主資本合計	2,376	2,705
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	—	△0
その他の包括利益累計額合計	—	△0
少数株主持分	310	275
純資産合計	2,687	2,979
負債純資産合計	4,616	4,885

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年5月1日 至平成22年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年5月1日 至平成23年10月31日)
売上高	5,850	7,318
売上原価	3,856	4,362
売上総利益	1,993	2,956
販売費及び一般管理費	1,580	2,370
営業利益	413	585
営業外収益		
受取利息	7	4
持分法による投資利益	31	34
その他	10	15
営業外収益合計	49	55
営業外費用		
支払利息	6	9
支払手数料	1	—
その他	2	0
営業外費用合計	9	10
経常利益	452	631
特別利益		
賞与引当金戻入額	3	1
関係会社株式売却益	—	1
その他	—	0
特別利益合計	3	3
特別損失		
貸倒引当金繰入額	66	7
固定資産除却損	2	3
その他	0	—
特別損失合計	68	10
税金等調整前四半期純利益	387	623
法人税、住民税及び事業税	155	190
法人税等調整額	19	49
法人税等合計	175	240
少数株主損益調整前四半期純利益	211	383
少数株主利益	1	31
四半期純利益	210	351

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年5月1日 至平成22年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年5月1日 至平成23年10月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	211	383
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	△0
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	—
その他の包括利益合計	△0	△0
四半期包括利益	211	383
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	210	351
少数株主に係る四半期包括利益	1	31

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年5月1日 至平成22年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年5月1日 至平成23年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	387	623
減価償却費	10	31
のれん償却額	9	12
持分法による投資損益(△は益)	△31	△34
貸倒引当金の増減額(△は減少)	70	△2
賞与引当金の増減額(△は減少)	△4	3
製品保証引当金の増減額(△は減少)	6	6
受取利息及び受取配当金	△7	△5
固定資産除売却損益(△は益)	—	3
関係会社株式売却損益(△は益)	—	△1
支払利息	6	9
売上債権の増減額(△は増加)	△13	28
たな卸資産の増減額(△は増加)	△47	△48
その他の流動資産の増減額(△は増加)	14	1
仕入債務の増減額(△は減少)	72	7
未払消費税等の増減額(△は減少)	△8	24
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△3	△42
小計	461	617
利息及び配当金の受取額	3	3
利息の支払額	△6	△9
法人税等の支払額	△132	△38
営業活動によるキャッシュ・フロー	325	573
投資活動によるキャッシュ・フロー		
短期貸付金の回収による収入	2	0
短期貸付けによる支出	△0	△0
長期貸付金の回収による収入	4	3
有形固定資産の取得による支出	△3	△12
無形固定資産の取得による支出	△1	△4
子会社株式の取得による支出	—	△62
子会社株式の売却による収入	—	2
関係会社株式の取得による支出	—	△17
敷金及び保証金の差入による支出	△0	△6
敷金及び保証金の回収による収入	12	0
その他	△7	△26
投資活動によるキャッシュ・フロー	7	△123
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	—	△97
長期借入金の返済による支出	△162	△96
配当金の支払額	△31	△35
その他の支出	—	△2
財務活動によるキャッシュ・フロー	△193	△231
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	138	218
現金及び現金同等物の期首残高	618	914
現金及び現金同等物の四半期末残高	757	1,133

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I. 前第2四半期連結累計期間(自 平成22年5月1日 至 平成22年10月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	飲食店向け 機器販売 事業	内装工事 請負事業	リース・ クレジット 取扱事業	その他 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	5,048	464	289	47	5,850	—	5,850
セグメント間の内部売上高 又は振替高	222	—	—	—	222	△222	—
計	5,271	464	289	47	6,073	△222	5,850
セグメント利益 又は損失(△)	444	△49	3	14	413	—	413

(注) セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

II. 当第2四半期連結累計期間(自 平成23年5月1日 至 平成23年10月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	飲食店向け 機器販売 事業	飲食事業	リース・ クレジット 取扱事業	その他 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	5,381	1,541	371	24	7,318	—	7,318
セグメント間の内部売上高 又は振替高	152	—	—	—	152	△152	—
計	5,533	1,541	371	24	7,470	△152	7,318
セグメント利益	517	68	7	7	601	△15	585

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△15百万円の主な内容は、各報告セグメントに配分していない全社費用です。全社費用は、主にグループ全体の管理業務に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(7) 重要な後発事象

該当事項はありません。